

各 位

会 社 名 株式会社オーエー・システム・プラザ
 代 表 者 代表取締役社長 長 谷 川 泰 規
 (J A S D A Q ・ コード 7 4 9 1)
 問 い 合 わ せ 先 取締役管理本部長 兼 総務部部长
 岡 田 晃 生
 電 話 番 号 0 5 2 - 2 6 3 - 8 6 5 0

**特別損失の発生並びに
平成 23 年 2 月期第 2 四半期累計期間及び通期の業績予想の修正に関するお知らせ**

この度、当社において、下記の通り特別損失が発生いたしますので、その概要をお知らせすると共に、平成 22 年 4 月 8 日に発表いたしました当社「平成 22 年 2 月期決算短信」のうち、平成 23 年 2 月期(平成 22 年 3 月 1 日～平成 23 年 2 月 28 日)第 2 四半期累計期間及び通期における個別の業績予想を下記のとおり修正いたします。

記

1. 特別損失の発生及びその内容

(1) PC 販売事業における減損損失

「固定資産の減損に係る会計基準」を適用することに伴い、PC 販売事業を運営している一部店舗の当社が所有している土地及び店舗設備等について、減損損失が 1 億 1 百万円発生する見込みであります。

(2) 不動産賃貸事業における減損損失

「固定資産の減損に係る会計基準」を適用することに伴い、不動産賃貸事業として当社が所有している土地の一部について、減損損失が 2 億 19 百万円発生する見込みであります。

(3) 自己新株予約権評価損の計上による損失

平成 22 年 9 月 9 日付「自己新株予約権の消却に伴う特別損失の発生に関するお知らせ」の今後の見通しにて、41,400 千円を自己新株予約権評価損として特別損失を計上する見込みとお知らせしておりました。

この度、平成 23 年 2 月期第 2 四半期の決算を精査した結果、本件自己新株予約権の評価減に伴い、同自己新株予約権に対応する新株予約権の発行価額である 11,500 千円も同時に評価することとなりました。よって前回発表の特別損失額 41,400 千円より 11,500 千円少ない 29,900 千円を自己新株予約権評価損として特別損失に計上いたします。

2. 平成 23 年 2 月期の業績予想の修正等

上記 1. 及び最近の業績を踏まえ、平成 23 年 2 月期業績予想を次のとおり修正します。

(1) 第 2 四半期累計期間 (平成 22 年 3 月 1 日～平成 22 年 8 月 31 日)

(単位：百万円)

	売 上 高	営 業 利 益	経 常 利 益	四半期純利益	1 株 当 たり 四半期純利益
前回予想(A)	3,070	81	63	58	1.48
今回修正(B)	2,828	50	36	△310	△7.91
増減額(B-A)	△241	△30	△26	△368	
増減率	△7.9%	△37.4%	△41.8%	—	

(2) 修正理由

売上高につきまして、PC 販売事業においては、新CPUや3D機能等が搭載された高性能パソコンが発売され、パソコンの単価が上がり販売金額ベースでは前回予想を上回るようになりましたが、一方ミニノートパソコンの需要が一巡したことによりパソコンの販売台数が前回予想を下回ったことにより、パソコン周辺機器やソフトウェアの売上が若干鈍る結果となりました。また、一部メーカーの商品の取扱いが無くなったことにより、若干の売上減となる見込みです。

不動産賃貸事業においては、国内市場の景気低迷により一部テナントの退去申し出がありましたが、第2四半期累計期間ではほぼ計画通りに推移しました。

以上のような状況により、売上高につきましては前回予想比2億41百万円減少し28億28百万円となる見込みであります。

営業利益及び経常利益につきましては、PC 販売事業の売上減による利益減により、それぞれ50百万円（前回予想比：30百万円の減少）、36百万円（前回予想比：26百万円の減少）となる見込みです。

四半期純損失につきましては、上記1. の減損損失を特別損失として計上した結果3億10百万円（前回予想は58百万円の四半期純利益）となる見込みであります。

(3) 通期（平成22年3月1日～平成23年2月28日）

（単位：百万円）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想(A)	6,091	107	70	60	1.53
今回発表予想(B)	5,691	90	60	△291	△7.45
増減額(B-A)	△399	△16	△9	△351	
増減率(%)	△6.6%	△15.8%	△14.2%	—	
(ご参考)前期実績 (平成22年2月期)	6,196	149	112	55	1.41

(4) 修正理由

売上高につきまして、PC 販売事業においては、第2四半期累計期間の修正理由によりパソコンの販売は伸び悩むことが予想されます。

不動産賃貸事業においては、国内市場の景気低迷によりテナントからの退去申し出があった都心部の一部物件については、後継テナントが見つかっておらず収入減が見込まれます。

以上のような状況により、売上高につきましては前回予想比3億99百万円減少し56億91百万円となる見込みであります。

営業利益及び経常利益につきましては上記売上減により、それぞれ90百万円（前回予想比：16百万円の減少）、60百万円（前回予想比：9百万円の減少）となる見込みです。

当期純損失につきましては、上記1. の減損損失を特別損失として計上した結果2億91百万円（前回予想は60百万円の当期純利益）となる見込みであります。

以上

(注) 上記の業績予想につきましては、本資料の発表日現在において入手可能な情報及び将来に関する前提・見通し・計画に基づき当社が判断したものであり、リスクや不確定要素を含んだものです。実際の業績は、今後の様々な要因によって大きく変化する可能性がありますので、これら業績等の予想に全面的に依拠して投資等の判断を行うことは差し控え下さい。